



診断ふくい

第30号

【発行】一般社団法人 福井県中小企業診断士協会 会長 津田 均

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂 3-7-1-16 福井県産業情報センタービル内 TEL 0776-67-7447 FAX 0776-67-7429

ホームページ <http://www.sindan-fukui.jp/> Eメール info@sindan-fukui.jp

【発行日 平成 29 年 6 月】

いつもと変わらない力強さと、新たな活動による飛躍を

会長 津田 均

新年度となり 6 月に入っています。そろそろ新しい体制が固まってきて、本格的な事業に取り組みを開始しようとしている頃でしょうか。改めて今後の取り組みなどについて、ご挨拶、ご紹介させていただきます。

私たち中小企業診断士は、地方創生をメインテーマとして、新しく展開される地域活動に合わせて、新しい企業ニーズに対して、福井県内の行政機関、支援機関、金融機関等と何ができるか、何をしなければならぬかなどについて話し合いを始めています。

我々中小企業診断士の取り組みとしての活動をご紹介します。まず、シンポジウムを開催します。昨年に続き広く県内全域から様々な方に参加して頂きたいと考えています。時期は 11 月頃を予定していますが、テーマは地方創生です。地方創生に関わる成功事例、取り組み事例、問題点と解決策の検討などについて、具体例とともに皆さんと考えていきたい、一緒に新たな取り組みについて相談しあうキッカケづくりにしていきたいと考えています。

次にご紹介するのは、“チーム支援“です。我々は単独で支援に関わる人が多いのですが、求められるニーズが多様化、専門化していく中で、一人の知恵と能力では対応できない状況を迎えて、チーム対応が求められており、その体制を整備しました。幸いに我々中小企業診断士協会には、85 名の会員がおり、皆が得意分野を持ち、その分野を超えて意

見、提案を高めあう体制ができあがってきました。この体制で、行政や地域の活動団体などと一緒に活性化に向けて計画づくりに携わっていきます。もちろん、出先機関、支援機関、民間企業に対しても同様の取り組みをしていきます。

我々中小企業診断士は、新たに必要となってくる知識、技術などに対応し、ノウハウづくり、能力アップに力を注いでいます。多くの分野に専門性が保てるように、県内各地の市町ごとに詳しい担当ができるように今後も精進していく所存です。

最後に、皆さんもご承知だと思いますが、金融機関は明らかに変わってきました。この金融機関が“事業性を評価する”という方向性に舵をきったように、事業を展開している組織体は、絶えず評価をして、見直して、高めていくことが欠かせないことだと感じています。我々と一緒に地方創生に向けて、福井県の創生のために、取り組みを開始してみませんか。中小企業診断士はその事前準備として県及び各市町の計画を知り、支援機関の計画を把握することに努めています。地域への活動領域を広げ、深めながら、事業のさらなる拡大を図りたいと考えています。一声かけて頂けることを期待しています。



委員会活動紹介

◆ 事業推進委員会



委員長 竹内 真一

事業推進委員会は、会社で言う「営業部隊」です。本年度は、前年度から実施している「営業」と「新事業の開発」の2本柱を更に推進します。

具体的には、行政・金融機関・支援機関・企業等の定期的な訪問により、関連機関等の悩み・問題点を把握し、これを解決する企画を提案する「ソリューション営業」を展開します。

各方面からは、「専門の異なる複数の診断士に関わってもらうことで、相談することに安心感や期待感がある」、「同時にいろいろな角度からの意見が聞けてスピード感がある」という意見をいただいております。

今後は、多彩な専門分野・得意分野を有する中小企業診断士が所属する「福井県中小企業診断士協会」の総力を結集し、様々な問題を解決していきたいと思っております。

◆ 創業支援委員会



委員長 出倉 裕

創業支援委員会では、昨年引き続き県下商工会議所等の支援機関主催の創業セミナーについて、その進め方のご相談に対応したり、各分野の講師の派遣を通じて創業者・創業予定者の支援を進めるとともに、個別相談や創業の具体的アドバイスにも応じていく予定です。

当県の中小企業診断士協会には、経営戦略・商品企画・顧客開拓・財務・労務・IT等の各分野を得意とする診断士が多数在籍し、創業セミナーや創業個別相談会等に的確な対応が可能です。

当県の中小企業診断士協会には、経営戦略・商品企画・顧客開拓・財務・労務・IT等の各分野を得意とする診断士が多数在籍し、創業セミナーや創業個別相談会等に的確な対応が可能です。

昨年の実績のお問い合わせや、企画の段階からのご相談にも対応いたしますのでご連絡ください。

◆ 県市町支援機関連携委員会



委員長 左近 政裕

1.経営発達支援計画の認定を受けた支援機関・認定を受けようとする支援機関の情報の収集を行う。

2.自治体・商工会議所・商工会・金融機関の各支援機関に福井県中小企業診断協会の情報を提供し、各支援機関との親交を深める

3.自治体・金融機関・商工会議所・商工会において地域中小企業の支援を行っている

各支援機関の皆さんに、中小企業支援において困っている問題・こうしたいという計画をお聞きし、福井県中小企業診断士協会が最適な提案を行います。訪問時に、遠慮なく是非ともお話しをお聞かせ下さい。

◆ 見習研修・養成塾委員会



委員長 北島 宏樹

今年度から新設された委員会です。見習研修は昨年に引き続き受託を目指し、プロコン養成塾では資格の学校 TAC が主催する

全国模擬試験を福井で初めて実施します。当委員会では①支援機関等の経営相談員スキル向上と、②中小企業診断士試験合格者を創出し当協会への入会を促進するだけでなく、③当協会会員のリーダーシップなどのスキルアップも図っていきます。

中小企業診断士は多くの企業との出会いがある魅力的な資格です。また、当協会では各種委員会や月1回の定例会など活発な活動の中で中小企業診断士同士の交流も盛んで多くの仲間ができる場です。プロコン養成塾と一緒に資格取得を目指し見習研修でスキルアップを図りましょう。

◆ 調査研究委員会



委員長 竹川 充

(一社) 中小企業診断協会が行う調査研究事業の受託を目指します。テーマについては委員会のメンバーと話し合いを行い、

福井県らしく、また経済・経営のトピックとなるようなテーマを選びます。行政からの研究の受託や研究会にとらわれない独自の調査研究事業も重ねていきますので、企業内診断士の方々にもご参加いただきたいと思います。

これまで、(一社) 中小企業診断協会(本部)の委託事業の実施、および観光団体より調査・研究事業を受託した経緯もあり、地域経済の動向調査・提言など、診断士のノウハウを活かした調査・提言が出来ます。また、支援機関の皆様には、伴走型小規模事業者支援推進事業(経営発達支援計画)に対するサポートをご提供いたします。

◆ 資格更新委員会



委員長 加藤 永俊

当協会会員を中心とし、資格更新のための「理論政策更新研修」を開催します。施策の理解を図るとともに、中小企業支援に必要とされる知識取得、また

革新的な企業経営に取り組む経営者を講師に招き実務に役立つ研修を行います。

【理論政策更新研修事業】

日時 平成28年9月9日(土) 8:50~13:00
会場 福井県産業情報センタービルマルチホール

福井県中小企業診断士協会では、「地方創生ナビゲーター」を重点目標に、各省庁が行う中小企業施策や公的機関の支援情報・支援施策(補助金・助成金など)の情報共有を図り、中小企業・小規模事業者に対する支援体制(個別支援、チーム支援)を構築しています。

◆ 総務委員会



委員長 川嶋 正己

総務委員会は、福井県中小企業診断士協会の組織としての機能を強化していく役割を担っていきます。事務局の仕事の見直しや必要なルールの作成などを

昨年度に引き続き進めます。また、当協会はどのような姿を目指すべきなのかのビジョンづくりを本格化させます。三役を中心に委員会を組織して会員

から広く意見を募り、ビジョンを形にしていく予定です。同時に、企業内診断士を中心に会員のニーズを収集し、実務ポイント取得対策などを検討していきます。

当診断士協会では「地方創生ナビゲーター」として、福井県の産業・観光分野で行政や支援機関にとってのシンクタンクのような存在になっていくことを目指していきます。個人では対応しきれない能力を組織として蓄えていきます。そのための組織力を当委員会が中心になって高めています。

◆ 例会委員会



委員長 谷川 俊太郎

中小企業診断士としての知識習得・支援能力向上を目的とした研修、県内中小企業の新分野や海外進出の取り組みについて事例研修を月例会として開催し

ます。加えて、各研究会、各中小企業診断士の発信の場としても月例会を活用し、中小企業診断士の発信能力の向上を目指す場としても月例会を活用してもらおうべく、多様な中小企業診断士に講師の依頼を行い、例会を通じた福井県中小企業診断士協会会員の能力向上を目標に活動します。

私達中小企業診断士は、プロとしての能力を高めることを欠かすことはできません。また、クライアントの様々な問題を解決するためには、中小企業診断士同士の連携も欠かすことはできません。例会委員会の月例会を通じて、当協会の会員診断士は能力向上と会員同士の交流に努めています。会員同士の横の繋がりも強いいため、ご相談事に対して適切な会員診断士をご紹介します。

◆ 広報HP委員会



委員長 北島 宏樹

今年度も昨年度と同様に、①協会会員同士のコミュニケーションの活発化、②支援機関・金融機関・一般企業への情報発信(媒体:ホームページ、パンフ

レット、会報)を中心に協会の見える化を推進します。他にも今年度は協会パンフレットの刷新を行い、

当協会を身近に感じていただけるようにしていきます。

当協会で開催しています、定時総会、シンポジウム、月例会、国内・海外視察、各委員会活動などは年2回発行の会報「診断ふくい」で配信していますが、ホームページでは、会員紹介、診断事例、調査研究事例など会報にないコンテンツも盛りだくさんです。一度ご覧になって下さい。

(協会 HP : <http://www.sindan-fukui.jp>)

◆ 会員研修・視察委員会

委員長 吉田 裕晃



当委員会ではクライアントから中小企業診断士に期待されるコンサルティングなどのスキルを再確認し、更なる向上を図る

研修会や先進事例先への視察会を実施しています。

今年度は「ロジカル・シンキング」や「IT」をテーマにスキルアップ研修会を実施します。また地域づくりや観光活性化に向けた事例を学ぶ国内視察研修は北関東もしくは東九州を、さらに県内企業の海外展開の事例と課題を現地で学ぶ海外視察はインドネシアもしくはフィリピンを検討しています。奮ってのご参加をお願い致します。

当協会では時代のニーズに応えられるよう常に自己研鑽の場を設けて診断士のレベルアップを図り、地域中小企業を強力にバックアップしています。経営サポートのエキスパート集団である中小企業診断士を是非ご活用下さい。

◆ 福祉ビジネス研究会

委員長 中川 義崇



介護事業所や障害事業所が抱えている経営課題を解決するための研究会を開催し、会員の福祉ビジネス支援のスキルアップを図ります。

前年度は、福井県庁担当課職員様を招いての集合研修会、及び、会員のリレー方式による継続的な訪問支援を行いました。今年度は、経営課題を解決するためのノウハウをまとめたいと考えています。

【事業】

①介護事業所向け

介護事業所には、キャリアパス制度の運用に課題があります。社労士にはない診断士ならではの人事考課制度・賃金制度のノウハウをまとめたい。

②障害事業所向け

障害事業所では、工賃アップのための具体策の提示が求められている。移動販売事業への新規参入から販路開拓までのノウハウをまとめたい。

今年度の福祉ビジネス研究会は、成果の見込める具体的な指導ができるように、また、指導内容に再現性を持たせるために、「型」となるノウハウをまとめたいと考えています。

毎月会員が集まり、たたき台となる「ノウハウ」をブラッシュアップしていくことで、本年度末までには完成させたいと考えています。

完成のあかつきには、当研究会を「福祉事業所の経営課題を解決するための知恵袋」としてご活用いただければ幸いです。

◆ シンポジウム委員会

委員長 竹内 邦夫



地域連携委員会を改め、本年度は、シンポジウム委員会として活動します。昨年度は、『地方創生に参画する中小企業企業診断士』をテーマにシンポジウム

を開催しました。今年度も11月頃に地方創生をメインテーマとして成功事例、取り組み事例など具体例を発表する予定です。

このシンポジウムが、参加していただいた皆様と新たな取り組みを相談するきっかけになればと考えております。会員の皆様、他の士業の皆様、地方創生に関心のある皆様、是非ご参加いただきますようお願いいたします。

地方創生のまちづくりに貢献するため、地方公共団体や支援機関の「連携」を強化することを目的にシンポジウムを開催いたします。このシンポジウムが、参加していただいた皆様と新たな取り組みを相談するきっかけになればと考えております。

具体的には、平成28年度に受賞した診断協会会

長賞の事例を始め、成果を上げている事例を紹介する中から、ともに地方創生を進める手がかりをつかんでいきたいと思えます。

是非ご参加いただきますようお願いします。

◆ 農業ビジネス研究会



委員長 前野 壽伸

「ふくいのあるべき農林水産業の方向性」を研究し、その実態を経営面及び政策等から調査することを目標としています。

集まっていたいただいた方々との話

し合いからその年度の活動方向を決めるため、多面的な取組みが可能となっています。

昨年度は、農業法人化促進事業（セミナー及び個別指導）を受託。今年度も皆さんで決めた活動方針の中から、訪問や調査、研究を通じて事業の受託ができればいいと考えています。

多くの方に参加いただき、新たな切り口で活動を進めることが事業の受託に繋がると考えています。

◆ 観光産業化研究会

委員長 峠岡伸行・川嶋正己



北陸新幹線延伸などの高速交通網整備、福井国体や東京オリンピック開催など、福井県の観光を取り巻く状況は大きな変化の中にあります。インバウンド対策の立ち遅れなども指摘される中、福井県はどのようにして観光を振興し、それを産業として事業者の収益にまで落とし込むべきなのか、早急に考えてアクションを起こす必要があります。観光産業課研究会ではその環境変化を調査するとともに、市町に対する具体的な提案をまとめ、当該市町の関係者と意見交換を行っていききたいと考えています。

福井県中小企業診断士協会では約 10 年前から「観光」を大きなテーマとして捉え、調査研究を続けています。我々の提案も参照して観光産業課に具体的に踏み出した勝山市の例なども出ています。我々を観光産業化のシンクタンクとしてご活用いただければと思っています。

福井県中小企業診断士協会では約 10 年前から「観光」を大きなテーマとして捉え、調査研究を続けています。我々の提案も参照して観光産業課に具体的に踏み出した勝山市の例なども出ています。我々を観光産業化のシンクタンクとしてご活用いただければと思っています。

協会活動のご紹介

ベトナム・ハノイの県内進出企業を訪問 ～海外視察研修報告～

福井県中小企業診断士協会では、平成 29 年 2 月 22 日（水）～26 日（日）の日程で、ベトナム社会主義共和国ハノイ市周辺地域に進出する福井県企業を訪問する海外視察研修を、福井県経営者協会、福井県立大学地域経済研究所、福井銀行との共催で実施した。

今回の視察会には、経営者協会と共同で募集した社会人 11 名（うち会員 5 名）と大



学生 2 名に加え、福井県立大学の学生海外インターンシップ事業と連携して学生 10 名と引率者 2 名、ハノイでのビジネス商談会に参加する福井銀行行員 5 名の総勢 30 名で、視察見学を実施した。

主な視察訪問先は、以下の通り。

- ①ハノイものづくり商談会（福井銀行共催）
- ②吉中精工ベトナム（タンロン工業団地）
- ③ジェットロ・ハノイ事務所
- ④前田工織ベトナム（ダイドンホアソン工業団地）
- ④ナカシマベトナム（ハイフォン市）
- ⑤イオンモール・ロンビエン

また、ベトナム政府関係者や福井県企業の駐在員を囲んでの夕食懇談会も開催し、経営だけでなく駐在員の生活などについても忌憚のない意見交換を行った。

ジェットロでは、ベトナムの経済情勢や日本企業の進出動向などについて何うとともに、現地法人を訪問した 3 社では、各企業のベトナム進出の経緯や経営の状況、労務管理面での取り組みなどについて説明いただいた後に、参加者からの質問にお応えいただき、その後工場内をご案内いただくなど、各社とも予定時間を越えた訪問となった。

訪問先でのヒアリングの内容を整理すると、

①人口 9,300 万人のうち 40 歳未満が 64%と労働力人口が豊富で、消費市場の拡大も期待できる

②経済成長率は 7%で、一人当たり GDP は地方の農村部を含め平均 2,000 ドル程度と着実に上昇し、物価が安



定したことで労働者の転職が減少

③海外からの投資も過去最高に増加し、毎年 200 億ドルを超え、最近では北部への投資が増加

④世界各国との経済連携協定を積極的に結び低関税で輸出できるメリットが拡大中

⑤中間所得（年収 15,000 ドル）以上世帯が 400 万人まで増加しているが日本製品はまだ買えない

⑥工業団地は 50 年の使用権を一括して購入する形が多く、中小企業向けに貸工場なども増加

⑦近年、日本の投資は小売業、コンサルやホテル等サービス業が増え、全体として小型投資が増加

⑧中国国境への高速道路、大型船用の港湾施設が整備中で、物流が改善されれば更に注目される地域
また、ベトナムの労務管理については、

①ベトナムは識字率が 95%と高く、文字で表せば理解できるが、一方で指示されたことはできるが、自分で工夫することは苦手

②東南アジアでは共通して叱られた経験が少なく、人前で叱ると辞めてしまうので、コミュニケーションと取り方に工夫している

③従業員の定着を高めるためには、家族と仲良くすることも必要で、従業員の結婚式に出席したり、社員旅行に家族を同行させたり、地域のお祭りに参加するなど家族や地域を意識した取組みが重要

④物価上昇に合わせて国が最低賃金を毎年引き上げているが、勤続年数に応じて昇給したり、頑張った人にちょっとした手当を出すと、定着率や生産性は徐々に上がっていく

⑤日本で留学生を採用したり、また現地社員を日本で研修することで、日本の文化や考え方、技術の大切さや経験によって習熟していくことを学び、

それが品質向上や定着にもつながる

原材料の現地調達など課題はあるものの、インフラの整備が進み着実に成長しているベトナム北部は、今後も中国と東南アジアを繋ぐ重要な地域として更に発展していく可能性を感じた訪問でした。

12 月例会で県内 SC の現状と今後を学ぶ

平成 28 年 12 月 7 日（水）、織協ビルで 12 月例会を開催、会員 27 名が参加し、地域間競争が激化する中での県内ショッピングセンターの状況と福井県内の共同店舗の課題について学んだ。

まず、（協）福井ショッピングモール（エルパ）事務局長の佐々木国雄氏から、「デベロッパーからみた流通業の現状と今後」をテーマに講演頂いた。

「エルパ」は、アピタと地元の商業者による協同組合エルパで構成され、開業から 16 年を迎える。協同組合の店舗だけで年間 250 万人がレジを通過するほど、多くのお客様に来店いただいている。お蔭様でエルパは、昨年度開店以来最高の売上を記録し、アピタを含めても過去最高となった。

要因が何かと特定するのは難しいが、エルパでは年間の休日を増やす取り組みを進めていて、組合員のお店の従業員が休めない状況では、従業員満足度が下がり定着率も下がると、それが売上に大きく影響するのではないかと考え、年間休日を 10 日に増やしたところ、売上が向上する結果につながった。

事務局にいて感じることは、組合員は皆さん中小企業で、売上には関心があっても係数はあまりわかっていない方が多いということ。また、給料をすこし上げれば人は採用できると思っていること。実際に店舗を見ていると、経営者が普段から従業員に目を掛け声掛けしている店舗は業績がよく、経営者自らが頑張っている姿を見せている店舗は従業員の定着率も高い。

エルパと他の共同店舗との違いは、組合直営の店舗を持っていることで、実際に事務局も店舗の経営を行うことで売上を上げていけば、組合員に対しても指導助言を行う際に説得力があるし、組合員も助言を聞いてくれるように変化してきた。

中小企業診断士の皆さんには、①総論ではなく店舗毎に具体的な指導をして欲しい、②単発の助言だ

けでなく最終的な結果の検証まで支援いただきたい、③経営者は店頭からなかなか離れられず、ネットワークを作る時間がないので、専門家など連携できる人脈を紹介して欲しい。

続いて、福井県中小企業団体中央会専門員の芹沢利幸氏から、「福井県内の共同店舗の状況と今後」をテーマに「福井方式」の解説を含め講演頂いた。

福井の共同店舗の特徴は、地元商業者でつくる協同組合がSCを開発し、そのテナントとしてGMSを誘致していったところで、「福井方式」と呼ばれている。昭和52年に最初のSCとして「ピア」が誕生したが、当時ダイエーが全国の空き地を物色して、次々と大規模店を建設していた時で、地元商業者がダイエーの出店を阻止するために連携して取り組んだものが、「福井方式」として定着した。

このような「福井方式」の協同組合SCは県内で11店舗あるが、エルパのような好調な店舗は少なく、ほとんどが空き店舗を抱える状況にある。これは、バブル期に何もしなくても商品を並べておけば売れた時代を経験して、個店経営者が努力することを忘れてしまったからではないのか。

今、福井の商業者の話題は、小松のイオンモールの影響がどのくらいであるのかで、周辺に 카테고리キラーが集積し、また家族連れが楽しめる公共施設の整備も進んでいて、買物だけでなく地域が連携して、楽しく滞在できる仕組みをつくらなければ、小松エリアに負けてしまうのではないかと懸念している。

SCも昔のように、ワクワク感を感じられる場所にしていかななくてはいけない。県内では「アミ」が接客に力を入れて取り組んでいて、周辺にスーパーが出店しても売上が下がっていない理由が、顧客との関係性を大事にし、スタッフがしっかりとした接客をしているからではないか。やはり人づくりが小売業にとって生命線なのではないか。

嶺南の大規模農業の現状を学ぶ

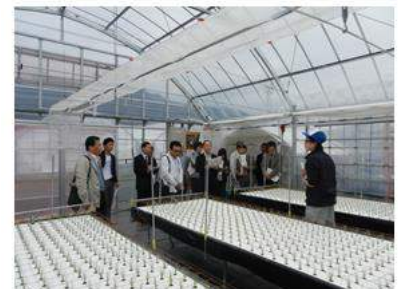
～農業ビジネス研究会を開催～

福井県中小企業診断士協会では、農業分野での経営支援拡大と受託事業の開拓に向けて農業ビジネス研究会を設置し、関係機関への働きかけや具体的

な支援事例の創出に取り組んできたが、今回、同研究会の企画で、嶺南地域で取り組まれている大規模施設型農業の事例やメガファームへの取り組みについて現地見学を行う例会を平成29年4月8日(土)にバスツアーで実施し、関係者を含め18名が参加した。

最初に訪問したのが、小浜市で平成27年度からスタートした大規模ビニールハウス14棟をつなげて青ネギ生産に取り組む(合同)若狭こすもかんとりーで、平成27年8月に設立し、現在3名の社員とパート1名で操業を行っている。

まず、この連棟ハウス整備事業は、JA若狭が主導して、国の補助5割、福井県及び



地元自治体の補助約4割を受けて施設を建設し、それを運営主体である若狭こすもかんとりーに年420万円のリース料で14年間賃貸する仕組みとなっていて、2億円以上かかるとみられる施設費用をJAが補助金を利用して建設して賃貸することで、新たに大規模農業に取り組みたいという農業者にとっては資金面でも安定したスタートが切れる仕組みとなっている。

この施設では、福井県内では生産が少なかった青ネギを、パレットを利用した水耕栽培で生産しており、種の植え付けから収穫までこのビニールハウスの中で全て行い、年間52tを目標に生産に取り組み、全量をJAに出荷している。

生産した青ネギは、他の大規模農家から持ち寄った青ネギと一緒に、JAの選果場で調整包装が行われ、主に県内スーパーに「幸福(しあわせ)ネギ」の名称で出荷されていて、「将来は関西方面にも出荷拡大を考えている」というお話しでした。

2番目に訪問したのが、高浜町で「越のルビー」で有名になったミディトマト生産に取り組む(合同)ながの農園で、平成24年度に若狭地区の大規模エコ園芸施設の第一号として建設された施設。

こちらの施設は、高浜町の3セク会社「いきいき

タウン高浜」が福井県と高浜町の補助金を活用して施設を整備し、運営主体となる農業者を募集して、14年のリース形式で賃貸する形をとっている。

年間 60 t
の目標に対して現状では 52 t の生産で、また規格に合った製品は 8 割と



なっていて、規格外の 2 割も低価格で J A の直売所に出すなど、販売面では「J A が全量買い取りしてくれる契約となっているので安心して生産に力を注げる」と代表者は話す。生産で苦労しているのは温度管理で、センサーなどで暖房や湿度の調整はしているものの「急な天候の変化や温度の変化に植物は対応できないので、どうしても品質が落ちてしまうのが課題」とも話している。

「フルタイムの従業員を採用したいが、現実にはそこまで収益が出せていないので、パートの皆さんに交代で勤務いただくことで、なんとか生産、出荷を回している」と本音を語ってくれた。

新入会員紹介



株式会社 福邦銀行 下中 俊彦

平成 28 年に資格登録し、今回入会させていただきました。嶺南名田庄村生まれ「シタナカ」と言います。資格取得の

きっかけは会社（銀行）の資格取得制度の中でレベルアップを目指し受験しました。資格取得後の現在は期待されている部分もあり正直戸惑っていますが、自分自身が楽しまなければ続かないと開き直って、仕事（営業）に取り組んでおります。

クライアントから頼られる診断士になりたいと考えております。細かなことでも相談してもらえるように信頼関係を築き、課題や夢を語ってもらい、それに役立つ診断士になりたいと考えております。地方創生が最近のキーワードになっていますが、その役割を担えたらと思います。

事業承継、販路開拓等福井県の産業が新幹線を機に盛り上がって、若い経営者が元気に活躍できる場を提供できる仕事に取り組みたらと思っています。

株式会社 福井銀行 松村 和幸



平成 27 年に登録し、この度入会させていただきました。1990 年生まれの 26 歳です。資格取得のきっかけは、地方銀行に就職することが決まったときに、地域活性化のためには地

元の企業が成長することが必要だと感じ、その手助けをしたいと思ったからです。現在は経理部門で実際に企業と関わる機会は少ないですが、様々な形で地元企業の支援に携わることができれば思っております。

目指す診断士像といたしましては、経営者・企業が自ら考えて持続的にアクションを起こせるようになってもらえるような手助けができる診断士になりたいです。そのためには、経営者や従業員の方などの納得が得られるような提案を、対話を重ねながらしていけたらと考えております。

入会してやりたいことといたしましては、年代の近い人たちのチャレンジの手助けをしたい気持ちがあるので、創業支援などに携われる機会があれば参加したいです。また、経験豊富な先輩方からひとつでも多くのことを学び、自己成長につなげ、さらに他の誰かの成長につなげていきたいです。

日本システムバンク株式会社 大森 健



平成 22 年に資格取得し、今回入会させていただきました大森健です。現在は不動産関連の企業に勤務致しております。資格取得のきっかけは、社会人生活が 20 年経過した頃、目

に見える自分の強みが何も無い事に気づき、東京で勤務している期間に一念発起し、資格取得致しました。また取得後に故郷である福井県に異動となり、普段の業務では中小企業の支援に携わる事が無く、診断士としてのスキルの維持、向上を目指し、今回、当協会に入会させていただきました。

福井県の企業はモノづくりは得意であるが、マーケティングが不得手であると云われております。自らの唯一の強みであるマーケティング力（営業力）を最大限発揮し、福井県の中小企業の活性化に寄与出来ればと考えております。